

授業概要

本コースは、世界各地のさまざまな文化に目を向け、それらの類似性と異質性を探りながら「文化とは何か？」という、人間にとって根源的ともいえる問いにアプローチすることを目指す。そこで毎回の授業では、文化人類学者たちが伝統的に扱ってきたテーマ——例えば、生業、婚姻と家族、性とジェンダー、宗教——を取り上げながら講義する。くわえて、クラスメートとのグループ作業を通じてまとめた成果を発表する「グループ・プロジェクト発表会」、各自で博物館を訪れて学びの成果を報告する「博物館プロジェクト報告書」などの、学生が主体的におこなう課題も用意されている。こうした講義と参加型の学びをとおして、学生一人ひとりに「自ら考え、自ら学ぶ」「仲間とともに考え、仲間とともに学ぶ」という、学問に対する能動的な姿勢を育てていただければ幸いである。

授業計画

(進捗状況等により変更する場合がある。)

第 1 回	オリエンテーション：本コースの紹介、授業の進め方、課題の提出、評価の方法など
第 2 回	イントロダクション：文化人類学とは？
第 3 回	「フィールドワーク」と「民族誌」
第 4 回	文化人類学の歴史を概観する 1：文化人類学誕生以前から古典的進化主義まで
第 5 回	文化人類学の歴史を概観する 2：文化人類学の成立と発展（20世紀前半まで）
第 6 回	さまざまな言語：言語人類学的アプローチ
第 7 回	さまざまな生業と社会構造
第 8 回	婚姻・家族・親族
第 9 回	性・ジェンダー・セクシュアリティ
第 10 回	グループ・プロジェクト発表会（前半）
第 11 回	グループ・プロジェクト発表会（後半）
第 12 回	宗教と儀礼
第 13 回	神話と民話
第 14 回	文化的アイデンティティの表出：芸術
第 15 回	「文化」とは？：本コースのまとめ
第 16 回	学期末試験

到達目標

1. 文化人類学の代表的な理論・概念について説明できる。
2. 文化人類学を特徴づける相対主義の立場から、世界の文化的多様性について理解できる。
3. 文化人類学の視点を使いながら、現代社会が抱える諸問題を自分なりに読み解くことができる。

履修上の注意

大学生としての自覚を持ち、自らの責任を果たすこと。ここでいう「自らの責任」とは、授業に出席するだけでなく、積極的に関与・発言し、さらには課題を時間厳守で提出することである。単位は与えられるものではなく、自ら取りに来るものである。なお、提出課題で不正（盗用、「コピペ」など）をした場合、たとえそれが初回であっても、即刻、本コースの履修を「不可」とし、厳重に処罰するので十分に注意すること。

予習・復習

その日に扱うテーマについて自分なりの理解や問題意識を持ってから授業に臨むこと。そのためには、事前に教科書を読んでおくことが望ましい。授業後は学習した内容についてクラスメートと議論し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。さらには、授業や課題をとおして学んだことをもとに、現代の世界が抱える諸問題について自ら考える契機としていただきたい。なによりも、旺盛な知的好奇心を育むことが求められる。

評価方法

以下の方法により総合的に評価する。なお、学期を通じて授業に 2/3 以上出席しないと学期末試験の受験資格を失う（つまり、他の評価項目にかかわらず単位の取得ができなくなる）。①授業への積極的な関与（発言・質疑応答など）10%、②グループ・プロジェクト（発表を含む）20%、③博物館プロジェクト 20%、④学期末試験 50%
*なお、提出課題での不正（盗用、「コピペ」など）は初回であっても厳重に処罰する。

テキスト

- ・教科書名：文化人類学キーワード 改訂版
- ・著者名：山下晋司・船曳建夫（編）
- ・出版社名：有斐閣
- ・出版年（ISBN）：2008年（ISBN 978-4-641-05886-6）